

2019年度医師事務作業補助者指導者養成講習会に参加して

砂川市立病院 医師診療支援室 主事 加藤拓也

2019年度医師事務作業補助者指導者養成講習会に参加させていただきました。医師事務作業補助者として必要な基礎知識を始め、医師事務作業補助業務マネ



会場風景

ジメントやコーチング、接遇マナー等、計4日間に渡り講義をしていただきました。

講義の中には医師の働き方改革において、医師事務作業補助者へタスクシフトを行う事が重要であり、そのために医師事務作業補助者に求められるスキルについてのお話がありました。講義を踏まえ、教育・評価方法について、病院経営への貢献についてのワークショップを行い、他の病院の現状や悩み、教育体制について知ることができ、大変貴重な時間となりました。

タスクシフトを行うためには、業務の標準化を行い、それに伴い教育・評価方法を確立すること、数人で複数科を担当するサポート体制をとることが重要であると感じました。また、実務者の声をきちんと聞き、問題解決に当たることのできる指導・管理者も重要であり、業務の標準化、教育・サポート体制の全てを以って、医師事務作業補助者の離職率を低くし、モチベーション・スキルアップに繋げることができると思いました。それにより、医師の負担軽減や医療の質の向上、病院経営への貢献ができることを学びました。

講習会で学んだことを当院でも指導者として生かし、よりよい病院作りに貢献できるよう努めたいと思います。

支部学術集会開催報告

第26回静岡県支部学術集会

学術集会会長：静岡県立総合病院診療支援部長 原田 清

2019年8月3日(土)、静岡県立総合病院にて、第26回静岡県支部学術集会を開催し159名の参加をいただきました。

今回は「目指すべき地域医療構



会場風景

想～この地域に住んで良かった～」をテーマに、特別講

演では、静岡県健康福祉部医療健康局医療政策課長の田中宣幸様に、静岡県における地域医療構想の推進に向けた取組について、シンポジウムでは、病院、在宅医、調剤薬局、訪問看護でご活躍されている4名の先生から、テーマに沿ってそれぞれの立場からご講演いただきました。ランチオンセミナーでは、静岡てんかん・神経医療センター診療部長の小尾智一様に「認知症と入院」をテーマにご講演いただきました。

一般口演ではクリティカルパス、スタッフ教育、退院支援、未収金、薬剤、リハビリ、地域医療連携など幅広いテーマで、各病院や地域で行われている様々な試みについて、計14題の発表がありました。

様々な立場から地域医療における取り組みをご発表いただき、活発な意見交換と有益な情報共有ができたと感じております。

最後に、本学術集会開催にあたりご協力いただきました皆様に心より感謝を申し上げます。

第18回青森支部学術集会

学術集会会長：青森市民病院院長 遠藤正章

2019年9月28日(土)、青森県青森市のラ・プラス青い森において、『安全で良質な医療の提供』をテーマに第18回青森支部学術集会を開催しました。



会場風景

特別講演では、大阪大学医学部附属病院中央クオリティマネジメント部教授・部長 中島和江先生に「レジリエンス・エンジニアリング理論に基づく医療安全への新しいアプローチ」についてご講演いただきました。

一般演題では、「医療安全」「業務改善、患者サービス」「医療の質」「教育、地域医療・地域連携」のセッションに分け、全15演題について発表いただきました。

当日は医療・介護関係者130名の方々にご参加いただき、盛況のもとに終了することができました。

ご参加いただいた皆さま、また、本学術集会運営にご協力いただきました皆さまに、心より感謝申し上げます。

第23回岡山県支部学術集会

学術集会会長：岡山赤十字病院院長 辻 尚志

2019年9月28日(土)に岡山赤十字病院南館において、第23回岡山県支部学術集会を開催いたしました。メインテーマは「今、改めて組織の危機管理を考える」としまして、100名のご参加をいただきました。

特別講演では、東京都立広尾病院減災対策室副室長の中島 康先生より、「今こそ必要なBCP」と題して講演